

富山市立図書館

# 図書館だより 第13号



今年は例年よりはやく松川べりの桜が咲きました。

桜の開花にあわせて、観光客を乗せた遊覧船が行き交う風景はこの季節の風物詩です。

松川沿いには、桜並木とあわせて28体の彫刻作品が立ち並び、松川べり彫刻公園として市民の皆様にも親しまれています。（詳しくは7ページ）

## 目次

特集1 子どもの読書活動推進計画について.....	2
特集2 富山市立図書館見学記.....	4
いちおしライブラリー.....	6
レファレンスあれこれ.....	7
山田孝雄文庫の資料 13 .....	8

# 特集1 子どもの読書活動推進計画について

## 「富山市子どもの読書活動推進計画」策定に向けての取り組み

「子どもの読書活動の推進に関する法律」は子どもの健やかな成長を願って、平成13年12月12日に制定されました。政府はこれを受け、この法律の総合的かつ計画的な推進を図るため、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、翌年8月2日に閣議決定をしております。

法律の第9条2では「各市町村は国の策定した基本的な計画や都道府県が策定した推進計画を基本とし、市町村子ども読書活動推進計画を策定するよう努めなければならない。」となっております。富山市では今年の7月下旬の策定に向け準備を進めております。

## 富山市のこれまでの取り組み

平成14年から、法律で定められた「子ども読書の日（4月23日）」に、市内の幼稚園や保育所に出向き、おはなしや読み聞かせの活動を行う「おはなしワールド」を開催し、33の幼稚園や保育所へ楽しいおはなしをお届けしました。

また、昨年は富山市における子どもたちの読書環境に関する現状を調査するため、子どもの読書活動にたずさわる諸団体や関係機関の方々にお集まりいただき、連絡会議を開いております。



## 今後の日程

平成16年

- 4月・一般公募委員の募集・選出
- 5月・第1回富山市子ども読書活動推進計画策定会議の開催
- 6月・パブリックコメントの募集
- 7月・第2回富山市子ども読書活動推進計画策定会議の開催
- ・「富山市子ども読書活動推進計画」の策定・発表

## 「富山県子ども読書活動推進計画」について

平成15年6月から富山県子ども読書活動推進会議において3回の会議を重ね、11月に「富山県子ども読書活動推進計画」を策定しております。

また、策定の前に広くインターネットを通じて県民の意見も募集しています。

詳細な内容については、「富山県子ども読書活動推進計画」(富山県教育委員会 平成15年12月)をご覧ください。各市町村の図書館に供えてあります。

## 関連資料の紹介

### 「富山県子ども読書活動推進計画」

富山県教育委員会編 2003

表題の推進計画全文と、策定までの経緯。すすめたい100冊の本の選定について。子ども読書支援ボランティア調査の結果。全校一斉読書活動の状況調査(平成14年度実績)を収録。



### 「すすめたい100冊の本」

富山県学校図書館協議会編 2003

富山県子ども読書活動推進会議と富山県教育委員会が、県内の小・中・高等学校および特殊教育諸学校の児童生徒から私のお気に入りの本、友だちにすすめたい本を、さらに先生から児童生徒にぜひすすめたい本をそれぞれ推薦してもらい、それを元に小学校、中学校、高等学校編の各100冊のリストにまとめたもの。



### 「読み聞かせ絵本リスト」

富山県図書館協会公共図書館部会編 2004

富山県図書館協会公共図書館部会子どもの読書支援分科会と富山県立図書館が、初めて読み聞かせをする人のために、「テーマがわかりやすくおもしろいか」



「絵にぬくもりが感じられるか」等読み聞かせの留意点に配慮して選んだ50冊を収録。

(中央館 小川)

## <お知らせ> 「子どもの読書週間」の行事

~漕ぎ出せ!本の海へ!~

### <読んでみよう子どもの本・展示会>

会期：4月23日(金)～5月12日(水)

午前9時30分～午後5時

会場：図書館7階特別室

内容：(1)図書館がすすめる400冊

(昨年1年間に出版された子どもの本から)

(2)読み聞かせ絵本50冊

(富山県公共図書館部会・富山県立図書館発行リストより)

(3)子どもが楽しんだ本50冊

(かみしばいランド、おはなしポケットより)

ボランティア「よみきかせの会」による読み聞かせを

11時30分から12時まで毎日行います。

### <おはなしワールド>

4月23日(金)「子ども読書の日」に、図書館司書とボランティアが市内の幼稚園・保育所30ヶ所を訪問して、おはなし会を開催します。



## 特集2 富山市立図書館見学記

「富山市立図書館を見学しよう」の報告

日時：平成15年12月10日（木）午前9時30分～

主催：富山図書館を考える会

参加：36名



富山図書館を考える会の主催による富山市立図書館の見学会（市民提案型まちづくり助成事業の一環）が行われました。

初めに、今、もっとも市民参画の進んでいるといわれている伊万里市民図書館見学の報告が行われたことで、見学に向けてのオリエンテーションになったようです。

見学に先立ち、職員が富山市立図書館の概要や沿革、また、時代とともに進化してきた市民ニーズへの対応等について、5回にわたる館内改装の状況等を交えながら説明しました。

見学後の意見交換では、「35年前に図書館専用として建築されなかった施設を、時代の要請に応えながら図書館サービスを展開していくために、5回にわたる改装を重ねてこられたことが良く理解できた。」「これからの図書館サービスを展開していくには、建物的に限界を感じる。35年間に培われたソフトの財産（市内全域サービス・レファレンスサービス・児童サービス・障害者サービス・情報化への対応等）の力をもっと発揮してもらうために、改めて新しい中央図書館が欲しいと思った。」等の感想が語られました。

以下、参加された皆さまの当館に対するご意見やご感想です。

### 良いサービスだと感じたところ

青少年図書室のおはなし会やかみしばいランドが毎日行われている点が本当に良いと思いました。

この建物のなかで、出来る限り可能なサービスを行っておられることが分かりました。

選書されて書架に並んでいる絵本や児童書はやはり安心で、子どもに「どの本を手にとっても、借りてきてもいいよ」と言える場所として、図書館のありがたさを思いました。

慌ただしい日常から、ここへ入ると全体に穏やかな空気が流れている気がしました。景観がまことに良いので、この場所が好きです。

読み聞かせ室に集う親子を見て、定期的に参加することが出来て良いと思った。多くの子どもたちが利用されれば良いと思います。

場所としては、富山の中心の緑の多い自然環境バツグンの最高の場所だと思います。

お身体の不自由な方々等、いろいろな世代の利用を考えてサービスをしているところ。

全域利用促進に対する姿勢がよく理解できました。

各種サービスに対して、場当たりのな実行ではない、長期展望をふまえてサービスを考えていらっしやるのが理解できました。

よく利用する参考資料室は、とても利用しやすく助かっています。見学者としてみてもやはり良いスペースです。

児童書、幼児向けの本のスペースは充実していると思った。棚も低めでオープンな明るい感じで良い。

障害のある方向けのサービスが思っていたよりずっと充実していて驚いた。

視覚障害の方に向けたサービスで、ボランティアが活動されているところが、地道だけれど良いサービスだと思いました。

今回、市立図書館の全体的な考え方や方針、成り立ちなどもわかり、お話を聞いてよかったと思いました。

青少年図書室に活気があり、本の並べ方や紹介の仕方に工夫が色々見られ、明るく楽しい印象を受け良かったです。

全体的にシステムとして十分に機能しているのを感じさせられました。

開架してある本がとても多く、楽しく本選びができました。

6階の山田孝雄文庫は初めて入室。落ち着いていて、蔵書保管も素晴らしい。

理念の上にあらゆるサービスが行われていることがよくわかりました。

予約がしやすく、他館の本を取り寄せていただけなのは良いことだと思います。

あらゆる面に機能的にサービスされていることを知りました。日頃利用していて、皆さまの陰の力を理解することが出来て、感謝の気持ちです。

母子とも安心して利用できる場所。

開館当時から自動車文庫、分館、読書会、その他分類カードなど全て利用させてもらったが、図書館なら当たり前のこととっていました。いまさらながら、感謝します。

資料を徹底して探してくださることに感謝。

## 不十分だと感じたところ

### 施設

インターネット端末の数はまだ不足です。またプライバシーが守られる仕切が必要です。

4階の一般図書室で1、2時間雑誌を読んでいると、少々子どもの音が耳障りだと思ふときがありました。

何度も改装されてより利用しやすくと考えていらっしゃるのでしょうか、古く、動線が悪く、階段の上り下りが多いという気がします。今日も20分以上待たされた駐車場。

若者が利用しやすいコーナーがない。

滞在したいという図書館の機能がもてない建物だと思う。

オーディオコーナーが殺風景だと思いました。壁の空きスペースがもったいない。

建物が全体的に暗く、狭く感じ、息苦しい。

1日ゆっくり図書館で過ごしたいので、もう少しスペースがあればと思います。

### 資料

一般図書室の婦人実用書の旬のものが少ないのが以前からの不満です。

視覚障害者の方に限らず、大活字本をもっと多く用意していただいて、広く手軽に活用できるとよい。

各フロアでの本のアピールが弱く感じました。本の別置はしてありますが、時節として引きつけられるものが少なく感じました。

もっと多くの本の表紙が見られるようなディスプレイを増やしたほうが良い。

CD、ビデオ関係は、まだまだ不十分な感じがした

もっと娯楽的な楽しめるものもあってよいと思う。

外国人向けの図書が少ないように思われました。

### サービス

人手が少なすぎるのではないかと、平生利用していて感じます。

利用者が提供してもらえるサービスを充分に知る機会が少ないと思う。

郷土資料の場所がわかりにくいように感じました。

特に児童書ですが、破れたり、はずれたりした本をそのまま貸し出されているのが残念。

### 提案

1階エレベーターの前に、山田孝雄文庫、翁久充文庫と書いてあるが、どのような人なのかかわからないので、プロフィールなど書いてあればよい。

これから建てる図書館は、高齢者も楽しく活用でき、心身共にリラックスできるものにしてほしい。公共交通で行ける場所がよい。

ドライブスルーで本の返却ができれば便利ですね。また、4、5階の返却窓口を一箇所に集中できたら、家族での利用時にもわずらわしさがありません。

もう少し、ソフトな読書室や喫茶室が広々とあればよいなと思いました。

ご指摘やご提案いただいた中で、学習室の音の問題、郷土資料の配置場所、音楽資料コーナーの壁面、館内掲示などは、ご意見を参考にさっそく対応させていただきました。

## 「いちおしライブラリー」 第1回 大人も読みたいファンタジー

「ハリー・ポッター」シリーズや映画「ロード・オブ・ザ・リング」のブームに代表されるように、今、世界中でファンタジー作品が次々と発表、紹介され人気を博している。

そもそも、ファンタジーとは「幻想的・夢幻的な文学作品」(大辞林)と訳される。私流に解釈すれば、現実世界とは離れた異世界を舞台にした作品、摩訶不思議な出来事を扱った作品ということになるだろうか。

しかし多くの人がファンタジーと聞いて思い浮かべるのは、やはり中世ヨーロッパ風の世界を舞台にした剣と魔法の物語であろう。そこでは人間とともにエルフやドワーフやホビットといった人間以外の種族が活躍し、害をなすモンスターと戦い、あるいは魔法や聖武具などの神秘の力を用いて悪しき神々や魔王、ドラゴンに立ち向かう。そして主人公はさまざまな苦難をのりこえて世界を救う英雄として描かれることが多い。

このようなヒロイック・ファンタジーの原点となったのが、先にもあげた「ロード・オブ・ザ・リング」の原作、トールキンの『指輪物語』である。この作品についてはあまりにも有名なのでここでは省略し、まず最初に、この『指輪物語』の系譜を色濃く受け継いだ正統派のファンタジー作品、『ドラゴンランス』を紹介しよう。

『ドラゴンランス』全6巻  
M・ワイス&T・ヒックマン著  
エンターブレイン 2002

主人公のタニスは、人間とエルフの間に生まれたハーフ・エルフ。あるきっかけから、聖なる青水晶の杖をまもって、蘇った<暗黒の女王>を倒すために仲間たちと冒険の旅に出ることになる……。

ここまで書くと『指輪物語』のストーリーと似ているようだが、この作品の魅力は主人公をはじめとする登場人物たちの描かれ方にある。二つの種族のはざまにあって苦悩する主人公をはじめ、肉体を犠牲にして偉大な力を手に入れた魔術師とその双子の兄やトラブルメーカーだが時としてパーティーの危機を救う仲間、愛と使命の板ばさみになって苦しむ美女……。個性的なキャラクターが長所も欠点もあわせて生き生きと描き出され、彼らの内面の心の動きまでリアルに伝わってくる。



### <その他の外国のファンタジー作品>

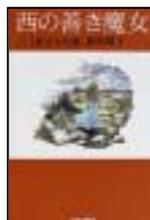
- 『七王国の玉座』上下巻  
J・R・R・マーティン著  
早川書房 2002
- 『黄金の羅針盤』『神秘の短剣』『瑯琊の望遠鏡』  
F・ブルマン著 新潮社 1999
- 『落日の剣 真実のアーサー王の物語』上下巻  
R・サトクリフ著 原書房 2002
- 『ペギー・スー 魔法の瞳を持つ少女』  
S・プリュソロ著 角川書店 2003
- 『ケストナーの「ほらふき男爵」』  
E・ケストナー著 筑摩書房 1993

続いては国内発のファンタジー作品を2作紹介する。

『西の善き魔女』全4巻  
荻原規子著 中央公論新社 1997

辺境の塔で育った少女フィリエルは、運命のいたずらから自分がグラール女王の血を継ぎ、次代の<女王候補>の一人であることを知る。闇の組織から狙われる幼馴染の少年ルーンとともに、時に反発し、時に惹かれ合いながら、自らの宿命に立ち向かってゆく……。

「勾玉三部作」でも有名な和製ファンタジーの第一人者、荻原規子の作品。この物語は、「少女たちの物語」といっても過言ではないだろう。主人公も、他の二人の<女王候補>たちも、皆それぞれに魅力的で、一生懸命にしたたかに現在を生きている。物語の最後に、驚くべき女王の秘密が明らかになったときも、彼女たちは常に前を見すえ、積極的な姿勢を崩さない。



『ドリームバスター』『ドリームバスター2』  
宮部みゆき著 徳間書店 2001

異次元の世界テラで、ある実験の被験者となっていた死刑囚たちが意識体となって逃げ出した。その逃亡先は地球の、人の夢の中。ドリームバスター(D.B.)は彼らを探し出し、捕らえて連れ帰ることで生計を立てている。主人公のシェンもその一人だが、彼がD.B.をやっているのには秘密があって……。

この作品は、ファンタジーとしてよりもかの宮部みゆきの作品として読んだ方も多だろう。基本的には一話完結の物語であるが、話が進むにつれ次第に主人公シェンとD.B.、そして脱走犯たちにまつわる謎が明らかになっていく。何が正しくて、何がいけないのか。葛藤するシェン、相棒マエストロの過去、謎の女の正体は…現在のところまだ物語は未完で、続編の発売が待たれる。



<その他の日本のファンタジー作品>

『放浪の戦士』『黄金の戦女神』他  
(デルフィニア戦記シリーズ 全18巻)  
茅田砂胡著 中央公論新社 1993

『魔女の腕時計』  
早坂真紀著 祥伝社 2002

最後に枠外として、異色のファンタジー作品をひとつ。

『魔法があるなら』  
A・シアラー著 PHP研究所 2003

舞台となるのは、現代の高級百貨店。しかし、そこに主人公一家がそこに住んでしまうという設定が普通ではない。物語は主人公の語りによって進行するが、そこかしこにドキドキする展開が待ち構えていて一気に読み進んでしまう勢いがある。これをファンタジーに分類してしまっているのかとも思うが、この作品も是非一読をおすすめしたい。(中央館 宮本)



## レファレンスあれこれ

Q. 昭和13年当時の樺太の地名、敷香町の読み方を知りたい。

A. まず、『角川日本地名大辞典 1 北海道』(1979年 角川書店)、『日本歴史地名体系 1 北海道の地名』(2003年 平凡社)を見るが記載がない。

そこで、古典的な参考書ともいえる『大日本地名辞書 第8巻 北海道・樺太・琉球・台湾』(1979年 富山房)を見ると“敷香支庁区”として紹介があり、シクカと読むことがわかった。



Q. 富山市の中心部を流れる松川べりに彫刻がいくつもあるが、それらがすべて紹介してある資料をみたい。



A. 最初に、『富山大百科事典』(1994年 北日本新聞社)をみると、松川べり彫刻公園の項に“水と緑のプロムナードをテーマに、県内の代表作家28人の彫刻作品を設置した”と書かれているが、具体的な作品の記述はない。

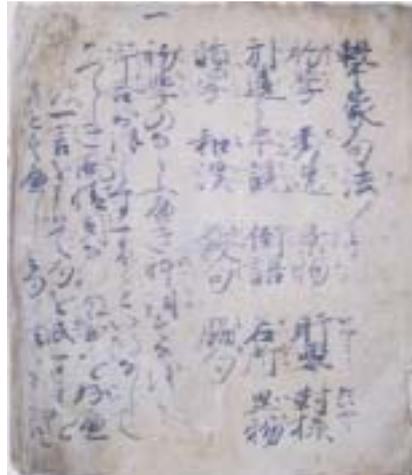
次に、『富山の野外彫刻』(1991年 桂書房)をみると、9つの作品の写真と解説がされているが、それ以外の作品については記載されていない。

そこで、富山市の観光振興課に問い合わせたところ、パンフレット、「松川べり彫刻公園～彫刻作品ガイド～」があり、写真、設置されている場所および全作品の紹介がされているということだった。

ちなみに、数部を図書館にいただくことにした。(呉羽分館 柴田)

## 山田孝雄文庫の資料 13 げきもうくほう 撃蒙句法

二条良基著。古写本。延文三年(1358年)撰。  
書写年不詳。1冊。たて22.6cm×よこ17.5cm。25丁。毎半葉12行。  
外題:「句法」。内題:「撃蒙句法」。奥書:「于時延文第三初秋上旬/依勅定草之/関白一翁(時に延文第三の初秋上旬、勅定に依りて之を草す。関白一翁)」なお、帙中に東京大学史料編纂所よりの借用礼状2通を付す。



「撃蒙句法」は連歌の第一人者二条良基が、後光厳院の勅問に答えて著した連歌の作法の書。撃蒙とは童蒙を撃励(激励)するの意。初学、秀逸、景物、肝要、対様、引違、本説、倒語、名所、異物、韻字、和漢、発句、脇句の14項目に分け、例を挙げて説明している。

「撃蒙句法」の存在は知られていなかったが、山田孝雄が古本屋で見つけ、大正6年これを原本として、珍書同好会から復刻本を出した。そのときの解題が『典籍説稿』に収載されている。格調の高い文章なので一部を以下に掲げる。

「良基の著述極めて多し。今一々あぐるを要せず。連歌に関しては上にいへる菟玖波集と連歌新式と二者共に極めて貴重の書たり。然れども、その作句の法を説けるが如きものありとは知られずしてありしに、はからずも得たるは即ちこの書なり。この書外題に句法とのみありて、内題に撃蒙句法とあり。蓋し童蒙を撃励するの義にして連歌の句の作法を論じたるものなるが、その簡にして要を得たること後世の末書と一ならず。而して、これ実にこの道の祖と目せらるる人の著なれば、歴史的研究の上には頗る広大な価値あるものとす。その発句の句法の説明の如き、最も注目すべきものの一なり。

この書は余、はからず書肆の店頭に獲たるものなり。その出所詳かならずといへども、故柏木探古の篋中にありしものなり。此を室町中期の書かといふ人もあれど、余はその奥書當時を下らざるものなりと信ず。奥書に『于時延文第三初秋上旬依勅定草之関白一翁』と記せり。これ実に菟玖波集撰出の翌々年新式制定の前十四年なり。之を以て見れば、この頃は相継ぎて連歌に心血を注ぎたりしものと思はれて、この著の出でしも偶然にあらざるを見る。書中に「愚句の千句に云々」といへるはまさに菟玖波集に『文和四年五月家の千句連歌に云々』と記せる当時のことなるべく、その著者の良基たることは疑ふべからず。按ずるに、勅問に答じたる旨を記せるはこれ北朝後光厳院の勅問に奉答したるものなり。この時良基実に初度の関白たりし時なり。その一翁とある号は未だ他に所見なけれど、彼実に満四十歳なりしを以て四十初老の義によりて署せりしものか。」

(中央館 亀澤)



平成16年4月21日 富山市立図書館 編集・発行  
富山市丸の内1丁目4-50 TEL 076-432-7272  
HPアドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp>  
E-mail lib-02@library.toyama.toyama.jp